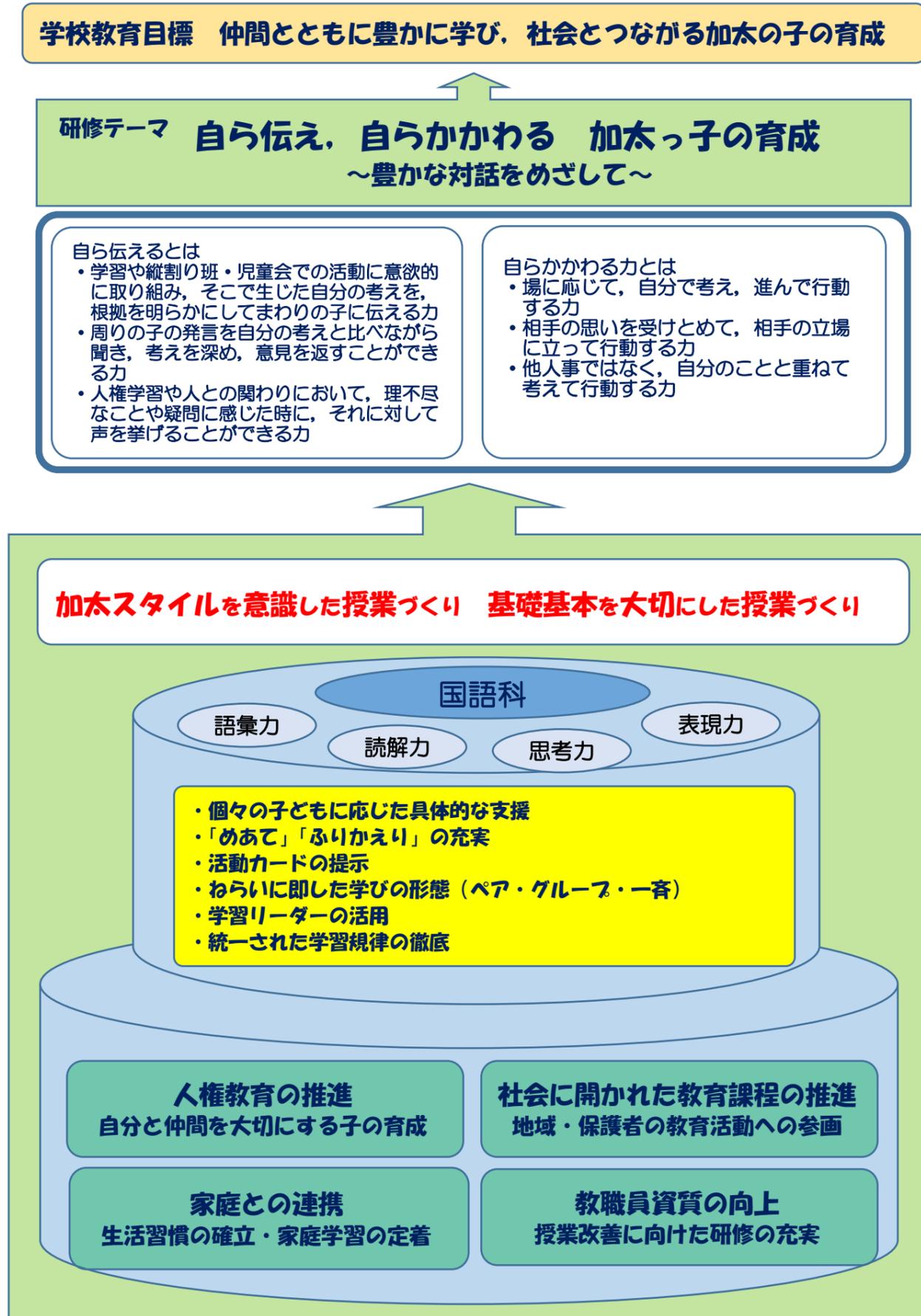


9. 研究構想図



研究デザイン

亀山市立加太小学校

1. 「亀山市教育大綱 基本方針—1」及び「亀山市教育関係職員の研修方針」

教育大綱 基本方針—1

未来を拓く子どもたちの豊かな学びの実現

亀山市教育関係職員 研修基本方針

**「一人ひとりの児童・生徒が個性を生きながら
なかまとともに主体的に学ぶために」**

- すべての子どもの学ぶ意欲を高め、社会で生きてはたらく「確かな学力」を育てる教育活動をすすめる。
- 教師の授業力向上を追求するとともに、系統的な指導をすすめる。
- 人権を尊重し、なかまとともに、豊かな心と身体をはぐくみ、自己肯定感・自己有用感を高める教育活動をすすめる。
- 地域の人材や活動を活用し、地域とともに特色ある教育活動をすすめる。

2. 学校教育目標

仲間とともに 豊かに学び 社会とつながる加太の子の育成

3. 関中学校区 研究主題

自他の尊厳と多様な価値観を認め、共生する児童・生徒の育成

4. 研究主題

**自ら伝え、自らかかわる加太っ子の育成
～豊かな対話をめざして～**

5. 主題設定の理由

「自ら伝える力」「自らかかわる力」は、本校の子どもたちに必要不可欠な力ととらえ、研究テーマとして取り組んできた。複式学級のわたりの授業では学習リーダーが活動を進める場面を設定することで、子どもたちが主体的に学びに向かう姿があり、その他の学級においても、ペアやグループでの話し合いを進め、自然に教え合う姿が見られる。縦割り班活動においては、高学年の子どもたちが低学年の子どもたちに対して、分かりやすい説明や寄り添うような声掛けができています。このように、授業や全校での活動の場面では、相手に分かるように話したり、自分で課題を見つけて行動したりするなどの子どもたちの姿が見られ、一定の成果が得られた。その一方で、みえスタディ・チェックや全国学力・学習状況調査等の結果から、論理的に考えたり、根拠を明らかにして説明したりする力が弱い傾向があることが明らかになっている。これらの課題を解決するために、本校ならではの少人数学習や、異学年集団での関わりといった特色を生かした仲間づくりを土台にした上で、国語科を中心に研究を深め、国語科で養った力を他教科等に生かしながら、「主体的・対話的・深い学び」にもつながる「自ら伝え、自らかかわる加太っ子の育成」をめざしていく。

6. 研究主題～つきたい力～について

《 自ら伝えるとは 》

- ・学習や縦割り班・児童会での活動に意欲的に取り組み、そこで生じた自分の考えを、根拠を明らかにしてまわりの子に伝える力
- ・まわりの子の発言を自分の考えと比べながら聞き、考えを深め、意見を返すことができる力
- ・人権学習や人との関わりにおいて、理不尽なことや疑問に感じたときに、それに対して声を挙げることができる力



《 自らかかわるとは 》

- ・場に応じて、自分で考え、進んで行動する力
- ・相手の思いを受けとめて、相手の立場に立って行動する力
- ・他人事ではなく、自分のことと重ねて考えて行動する力

～ 豊かな対話とは ～

- ・自分の考えや思いを相手に伝えるように表現できる。
- ・語彙が豊富で、時と場合に応じて使い方を考え、表現できる。
- ・子ども同士、教職員や地域の人との関わりを深め、自分の考えを広げ深めることができる。

7. 研究領域

国語科及び人権学習

8. 具体的な取り組み

(1) 授業づくりについて…今年度までに積み上げてきた「加太スタイル」をベースにして授業を行う。

《 加太スタイルとは 》

- ・個々の子どもに対する具体的な支援をする。…視覚支援やワークシートの工夫などをする。
- ・「めあて」「まとめ」「ふりかえり」の設定をする。…「めあて」の設定の仕方、「ふりかえり」として求めたい内容を明らかにして取り組ませる。
- ・「活動カード」の提示で見通しをもたせる。…授業の流れにそって「活動カード」を活用し、児童が自ら活動に取り組めるようにする。
- ・ねらいに即した学びの形態を活用する。(ペア・グループ・一斉)
…ペアや学習班の作り方を考慮する。
- ・学習リーダー (GL) の活用を進める。…出場を広げ、自学自習の習慣をつける。
- ・学習規律として指導すべき点を全職員で統一する。…「児童は呼ばれたら返事をして発言する」「友だちの発言に反応を返す」など



① 研究授業を軸に日々、実践を重ねる。

- ・研究授業の中で ICT 機器 (ipad, デジタル教科書) を活用することで、子どもにとって、より分かりやすい授業づくりを考える。
- ・心にとめる子どもを設定し、手だてが有効であったかどうかを考え合う。
- ・事後検討について…参観の視点にそって意見交流し、子どもと指導者の「よさ」と「課題」を明確にする。何を学び、学んだことをどう生かすかを常に意識する。(研修の自分化)
三重大大学の守田先生を招聘し、指導を仰ぐ。

・1・2学期中にそれぞれ1回ずつ互見授業週間を設定し、授業を見て学んだことを自分の実践に活かす。また、全職員が研修テーマに沿った授業を意識して行う。

② 個々のスキルアップを図る。

- ・関中学校区の公開授業に2回参加する。
- ・総合教育センターや亀山市の研修講座に参加する。

- ・他市や他県の研究発表会に参加する。※感染状況を鑑みる。
- ・各教員が年間一回以上 OJT を主催し、経験年数に関係なく互いに学び合う環境を整える。
- ③ 人権教育カリキュラムやふるさと学習指導計画の検討を行う。
- ・人権サポートガイドブックを活用する。



(2) 子どもたちが言葉の習得を進めるための手立てについて

- ① 「言葉の宝箱」を活用する。
- ② 辞書を積極的に活用させる。
- ③ 学 Viva やたしかめプリント等の各種プリントを活用する。

(3) 学級づくり・集団づくりについて

- ① 個々の子どもをていねいにみつめる。…Q-U や仲間づくりアンケートを実施する。
教育相談を定期的実施する。
- ② 心にとめる子どもを中心に学級の変容をみる。
…学級づくりレポートの交流をする。
レポートには、講じた手立てや人権教育カリキュラムの中で実践したことを入れ、子どもの変容を見つめた中身とする。
- ③ 子どもたち同士のつながりを把握する。
- ④ 日ごろから、子どもの姿を交流・相談する。…学年の枠を超えて子どもの様子を観察し、お互いに伝え合う。その中身を子どもに返していく。
課題が見つかったらすぐに相談をかけ、具体的な手立て・方向性を考え合い、指導を行う。
- ⑤ 保護者の思いをつかみ、連携をはかる。…生産体験学習や定例の家庭訪問等、保護者と顔を合わせる機会を利用して、理解を進める。
連絡帳や電話、家庭訪問など、日々の連絡をこまめに行う。

(4) 学力向上にかかわって

- ① 各種調査の結果分析を生かす。…3つのタイムのねらいと内容に結びつける。
あさかぜ → 1年生は現在の学習内容の定着を図る。
月曜日 全校読書
火曜日 業前活動(なわとび, ソーラン, 合唱)
水, 木, 金曜日 3・4年 国語短時間学習
5・6年 外国語短時間学習
チャレンジ → 自主学習の内容を充実させる。
はなまる → 現学年の国語と算数の内容を習熟させる。
月曜日と水曜日の週2回を確保する。



- ② 家庭学習の定着を図る。…家庭学習の内容や取り組み方を学年に応じて4月当初に発信する。

